

神戸市 ウェアラブルデバイス推進会議 (第 6 回) 議事要旨

出席委員＝塚本、寺田、富田、中内、西田、村岡

欠席委員＝稲見、上善、杉本、福田

オブザーバー＝山下、櫻井 (神戸マラソン実行委員会事務局)

事務局 (神戸市)＝志水、松崎、長井、白尾

1. 「ウェアラブルデバイスって何だ? フェスティバル」の開催報告

【長井】当日はたくさんのお子さんを含め、300 名くらいの市民の方にお越しいただいた。初めての開催であったが、たくさんの方にご参加いただき良かったと思っている。今年度も開催したい。

【塚本委員】今年も会議が立ち上がった。神戸からウェアラブルの取組みが始まったということをしつかりと情報を発信していく必要がある。フェスティバルはその足がかりとなるものとなり非常に良かった。内容も充実したものとなり、特に対談形式にしたのが参加者からは見やすかったのではないかと考えている。そして改めてこの推進会議の委員のみなさんの話のうまさを実感した。

一方、課題としては、もっと東京のメディアを呼ぶなどして大きく発信したかった。中身はもちろん、切り口、キャッチフレーズを含め、メディア受けを意識してやっていきたい。

【中内委員】家族連れが多かったのが意外だった。小さいお子さんがひっきりなしに「ウェアラブルだるまさんが転んだ」を体験していた。良いウェアラブル体験になったのではないかと。

また、音響そしてディスプレイなど会場環境が非常に良かった。

【長井】いずれも兵庫ベンダ工業株式会社から機材提供をいただき、非常に感謝している。

【西田委員】雰囲気がとても柔らかく、参加者の幅が広がったのが良かった。従来の ICT の先端のものを扱うイベントは専門性が高い参加者が多くなる傾向になりがちだが、今回のイベントはそうではなく、各参加者の滞在時間も長かった。

こういったイベントを最初に企画することは非常にリスクが大きいですが、そこをおして実施した神戸市に感謝するとともに踏み切った神戸市のすごさを感じた。改善点としては、せっかくの機会なので、もう少し期間を長くしても良かったかなと思う。

【長井】セッションと展示の両方を体験できるスケジューリングが必要だったかもしれない。

【富田委員】新聞社の記者に来てもらう働きかけをしておくべきではないか。また、未来社会を展望する等、何かフィーチャーするテーマがあっても良かったのでは。

【村岡委員】トークセッションにクオリティの高いメンバーが集まった。本来これだけの人材を集めるのは大変。反省点はタイムテーブルがタイトすぎたところ。あとは、IoT やコネクテッド何がしというところまで踏み込んでも良かったのではないかと。

【寺田委員】もっとふらっと寄れる場所でできれば良かったかなと思う。VR メガネなど子どもが着用できないデバイスもあるので、安全面には留意しておくべき。

【長井】各出展者の判断でコンテンツを出していただいているが、主催者としてもその点は留意すべきであると考えている。みなさまからのご意見を踏まえ、今年度も企画していきたい。

2. 介護分野での実証事業について

【長井】寺田委員のご協力のもと、須磨在宅福祉センターで若年性認知症の方を対象にウェアラブル実証を行った。運動へのモチベーション向上を図るため、活動量計を使って、チーム戦による歩数

競争をしてもらった。一定モチベーション向上の効果が見受けられた一方、課題も見つかった。そのあたりについて、寺田委員よりご説明いただきたい。

【寺田委員】まずは成果を上げるということは考えず、数字を見ることにポイントを置き、2週間実施した。今年はしっかりと実証の流れになるようなプランニングをしたい。みんながより健康に歩いていけるためにはというルールを作りたい。

また、認知症の方の歩き方でちゃんとデバイスが数値を拾えているのかも検証が必要。デバイスを失くしてしまったり、身に着けることを忘れるケースも見受けられた。身に着けることを忘れた場合、逆に歩くモチベーションが落ちることもあり、そのあたりが課題と考えている。

【長井】中には一日一万歩以上歩いた方もいた。普段夫婦で一緒に行動しているにもかかわらず、歩幅の関係で歩数に差が出たというケースもあった。

今後は、今回わかった課題などを踏まえ、しっかりと仕組みを作ったうえで、再度実証をしたい。

【寺田委員】万歩計を配って、数値に応じて地域通貨を渡すといった取組みをしているところがあるので、そういった事例も参考にしていきたい。

【塚本委員】今後の長期的な展望は。

【長井】GPSをつけた徘徊対策や排泄に対応するウェアラブル実証の可能性も探っていきたい。

【寺田委員】活動量計に良いイメージを持ってもらうことで、他のデバイスの需要にもつながる。

3. 神戸マラソンでの実証事業について

【山下】今年の神戸マラソンの開催概要について説明

全国に80近くの公認マラソンがある中で、どうやって独自性を打ち出すかが課題と考えている。ウェアラブルデバイスの活用により、発信力の高い大会となるよう引き続き連携させていただきたい。

【長井】昨年実現できなかったドローンを使った実証や同日開催のマラソン大会があればそれとの連携などができないか可能性を探りたい。

【櫻井】マラソンコースのPRのために、塚本委員が前回出走時にウェアラブルカメラで撮影していた映像を活用して、コースを360度見ることができるとのアプリをアシックスと協力して開発している。

【塚本委員】カメラの活用は非常に有効であった。デバイスを活用して、走っている途中で情報を得るしくみも有効である。

安全に使うための取組みとして、デバイス使用のガイドラインの作成などもやっていきたい。

オープンデータなどを活用し、トイレや給水場の情報を提供できるアプリの開発もできるのではないか。トイレの込み具合や次の給水所までの距離など、リアルタイムの情報も欲しい。

【富田委員】先日マラソン大会に出たが、制限時間の1分前ぐらいに閉門を閉められてしまった。走っている時には制限時間がわからないので、それがわかるようになれば良い。家族など、一緒に出走しているランナーの位置情報も知りたい。

【塚本委員】沿道で応援している人にとって、知り合いがどこで走っているかなどは知りたい情報である。マラソンではウェアラブル活用の宝庫だと考えている。

【中内委員】ウォッチやグラス型のデバイス用のアプリを募集してはどうか。

大会中に救急対応が必要となるケースもあると思うので、ランナーに脈拍などで異常があれば、知らせることができる仕組みがあれば良いのではないかな。

【長井】開発というアプローチも含め、今後アシックスとも相談しながら、今年の神戸マラソンでのウェアラブル実証の中身を検討していきたい。

4. 新たな分野（医療、防災・減災、マラソン以外のスポーツ等）での実証事業

【西田委員】昨年度総務省の SCOPE 事業の適用を受けた取組みについて紹介したい。バスの運転手にウェアラブルデバイスを着けて、運転中に気を失うケースを未然に防げないかを検証している。

デバイス単体のデータだけでなく車の挙動のデータも取り、一体で解析することで、安全運転のデータベースを作ることが狙い。今年度も継続審査が下りたので、引き続き取り組んでいく。

走行実験は神戸市内で行う。7月までに実験して、実際に8月から9月ぐらいから、みなと観光バスの30台でデータを取る計画を考えている。その中で結果を発表するシンポジウム開催も考えており、そういったところで神戸市と一緒にできることがあるかもしれない。

みなと観光バスは、バスのGPS情報をオープンデータ化していくことにも積極的である。

【塚本委員】立命館大学の西尾先生が消防庁とウェアラブルデバイスを活用した取組みをしている。消防隊員にデバイスを取り付けてもらい、安全な業務の遂行に活かそうとするもの。

【松崎】ひよどり台の消防学校内で研究施設があり、消火方法や消防スキルを向上させる機材の開発などといった研究をしている。

【塚本委員】神戸大学大学院医学研究科の杉本真樹氏がARを使って手術を行うなど、医療分野でのウェアラブル活用をされているので、次回お越しいただいて話をしてもらってはどうか。

【長井】eスポーツプロデューサーの犬飼氏が運動会をハックするイベントを開催されている。専門知識がなくても参加でき、家族連れでデバイスを使って新しい競技を創るというイベントを山口県で開催されている。

外国人観光客向けに、神戸でしかできないオリジナルスポーツを創ることができれば、観光施策という観点からも面白いのではないかとおっしゃられていた。

【寺田委員】ご当地感を出すのは難しい。神戸にしかない施設を使うなど、神戸に来ないとできない形にするのが良い。

【松崎】小中学校で震災について語れる先生が減っている。震災の疑似学習ができるウェアラブルデバイスなど、教材として活用できないかと考えている。

【寺田委員】東北ではARグラスを活用して、東日本大震災時のデータを見ながら、まちを巡るという取組みをしている。

【塚本委員】日本ウェアラブルデバイスユーザー会では、神戸を中心にファッションを推進しようという流れがある。4月29日にはNPO設立キックオフカンファレンスを神戸で開催する。

【村岡委員】ファッション学校のデザイナーの卵や個人デザイナーに声をかけて、コミュニティを作っていくのが良いかもしれない。

【塚本委員】ウェアラブルデバイスを着けている人はほとんどいない。それは、着けることによる価値を見出せないから。使いこなしている人の情報を共有することでユーザーも増えてくるのではないかと。ユーザーコミュニティで情報交換することで、利用を促進していける。

5. 次回（第7回）について

- ・日時 平成28年7月15日（金）16:00～18:00
- ・会場 神戸市役所1号館14階1141会議室